



鉚体協だより

第61号

発行 鉚路市体育協会
平成23年9月30日

さらなるスポーツの振興を

鉚路市体育協会 会長 張江 悌 治



昭和21年に加盟9団体をもって発足した鉚路市体育協会は、本年度、36競技種目と2支部計38団体の登録数となっております。会員総数は1万9千人を超え、鉚路市のアマチュア体育団体を総括するものです。

鉚路市体育協会は、これまで様々な種目において国内はもちろんのこと、オリンピックメダリストをはじめとする国際大会で活躍する優秀選手を数多く排出してきました。同時に市民皆スポーツを目指し、多くの市民が多様なスポーツ種目に取り組めるような現在のスポーツ真っ盛りの環境づくりにも努めて参りました。これは各加盟競技団体が長年にわたり、選手を育成して競技力の向上を図るとともに、スポーツを多くの市民に普及する取組を組織的に進めていただいたことによるものです。

今後、スポーツに対するニーズはいつそう高まっていくことが予想され、行政の施策は勿論のこと、スポーツ統括団体である鉚路市体育協会の果たすべき役割がますます重要とされるところです。

さて、本年度の自主事業として鉚路市体育祭や各種講習会を開催するほか、優秀選手や功労者の顕彰、全道・全国大会の開催協力、スポーツ少年団活動の促進、体育施設の充実に向けた要望活動といった事業を展開してまいります。また、昨年度に実施した社会貢献活動としての赤い羽根共同募金の取組は、鉚路市民に体育協会の活動の趣旨をご理解いただいたとともに、多くのご協力を賜りました。鉚路市体育協会の組織を挙げてのこの取組は本年度も継続いたします。

これらの事業の実現には各加盟競技団体のご理解とご支援が是非とも必要なところであり、関係皆様方の益々の発展を願いつつ、スポーツ環境のさらなる整備を進めていく決意でございます。

副会長就任あいさつ



足立 功一氏

平成23年度評議員会で副会長の要職を委嘱いただきました。私は、昭和61年から鉚路アイスホッケー連盟で日本リーグや国際大会のリンクドクターを務め、日本体育協会のスポーツドクターを取得してからは、世界選手権日本代表チームのチームドクター、長野冬季五輪、青森での冬季アジア大会のドーピングコントロールを行い、冬季国体北海道選手団総監督などさまざまな形で競技のサポートをさせていただいています。

現在アイスホッケー界では、少子化と経済状況の悪化、価値観の多様化などで選手数の減少を来し、単独でチームを構成することができない状況になっています。しかし、スポーツを通して健全な心と肉体の養成は、日本の将来を担う、素晴らしい人材育成には欠かせないツールであることは間違いありません。

皆様にご指導いただきながらこれからも地域に貢献できればと考えています。



北上 俊一氏

この度の評議員会にて、有り難くも副会長を拝命しました。その後、こんな私ごときが大変に反省の念にて過ごしております。

私の専門分野はソフトテニス。自己ベスト記録は「旧軟式庭球」の選手としての35歳の時。成年の部での北海道年間ランキング7位。ごくありふれたものでございます。

理事長8年と副会長25年を経て現在、会長3年目。昭和20年生まれ65歳。道東ヘアメイク専門学校の主でもあります。下手なカラオケ、お酒は嗜み程度に……。子供達は「ヘアハウスきたかみ」のチームを編制し長靴アイスホッケーにハマっております。お陰様で通算4度の市チャンプであり、今年も全国大会での優勝を果たしました。

このような私のスポーツ環境ではありますが、体育協会に関連するスポーツの普及・発展・強化のため、皆様のご指導を賜りつつ微力ではありますが、お役に立ちたく存じます。

釧路市体育協会表彰式

8月26日(金)

今年度は 功労賞1名、優秀選手賞3名に授与

平成23年度の釧路市体育協会表彰は、功労賞に釧路アイスホッケー連盟から加藤良信氏、そして、優秀選手賞には釧路スケート連盟から三村亨太さん、佐藤裕斗さん、北澤慶記さんの推薦があり、選考会議である理事会にて満場一致の決定をいたしました。表彰式は、「湿原の風アリーナ釧路」のサブアリーナで選手ら約300名が見守る中、整然かつ厳粛に執り行われました。



加藤良信氏は、釧路アイスホッケー連盟で37年間にわたり、強化委員長、理事を歴任され、現在は副会長として才腕を発揮されております。その間、若手選手の育成をはじめ数多くの全国大会・国際大会の運営に当たられ、氷都くしろの基礎づくりにおいて多大なる貢献をされました。



佐藤裕斗さんは今年1月、長野市オリンピック記念アリーナで行われた第60回全国高等学校スケート競技選手権大会において、10,000mに出場。第2位の成績を収めました。現在、釧路明輝高等学校3年生であり、今後の活躍が期待されております。



三村亨太さんは今年1月、岐阜市クリスタルパーク恵那スケート場で行われた第34回全日本ジュニアスピードスケート選手権大会において、5,000mに出場。見事、優勝を収めました。現在、釧路北陽高等学校3年生であり、今後の活躍が期待されております。



北澤慶記さんは今年1月、長野市オリンピック記念アリーナで行われた第60回全国高等学校スケート競技選手権大会において、1,000mに出場。第3位の成績を収めました。現在、明治大学1年に在籍しており、今後の活躍が期待されております。

秋季体育祭開会宣言・30種目一斉開始

スポーツの秋に健闘を誓う

第66回釧路市秋季体育祭の総合開会式が8月26日夜、「湿原の風アリーナ釧路」のサブアリーナで行われ、各競技の昨年度優勝チームの選手ら約300名が駆け付けました。

大会長の千葉誠一教育長が「最後まで諦めず、夢と感動を与えるような競技を期待します」とあいさつしました。続いて大会委員長の張江悌治会長が「スポーツに親しむ人が増えれば釧路の活力が増す。それぞれの年齢に見合った競技を楽しんでほしい」と激励しました。

代表して、釧路テニス協会の三上建選手が「支え、励まし、指導して下さった全ての方々への感謝の気持ちを胸に、全力でプレーすることを誓います」と力強く宣誓をし、競技にかける意気込みを示しました。

体育祭は、軟式野球やパークゴルフなど既に開幕した種目もありますが、多くは9・10月に集中しており、30競技で約6,000人が出場し、市内各地で熱戦が繰り広げられます。



総合開会式



宣誓



軟式野球



ソフトテニス

釧路市体育協会阿寒支部

地域の住民とともに!!

事務局 久保田 仁



当支部は、昭和42年7月に設立し、現在14団体約650名で活動しております。毎年、住民参加型イベントとして阿寒町行政センター前広場で開催している「阿寒ふるさと・ほろろんまつり」では2種類の事業を行なっています。

今年も子供から高齢者まで参加できる「ダーツでゲットだぜ!」に100名、「親睦玉入れ大会」に町内会や職場から5チーム50名の参加者があり、とくに玉入れ大会では50個の玉を先に全部入れた方が勝利というルールのもと、トーナメントで行ったため、一戦一戦が白熱し最後の1個で勝敗が決まる試合が多く、大いに会場をわかせてくれました。

また、ソフトボール協会との共催で、6～8月までナイターリーグソフトボール大会を開催し、音別や釧路からの参加もあり、大会を盛り上げてくれています。

本年度は、アイスホッケー協会との共催でナイターリーグ長靴アイスホッケー大会も1～2月に予定しており、今後もより多くの住民に参加して楽しんでもらうため、資質向上研修会等を開催し、指導者の育成にも取り組み、身近な体協として住民に接するように取り組んでまいります。

釧路市体育協会音別支部

ウォーキング教室

事務局 山田 昌江



屋外での運動が心地よく感じられるようになった6月に、スポーツプログラマー佐藤裕子先生による「ウォーキング教室」

を開催しました。

当日は、現在ウォーキングを実践している方、これから始めようかなという方など22名が会場の音別町森林体験交流センターに集まり、脈拍数や自分の歩幅などを計測した後、ウォーキングの効果や正しい歩き方を学びました。

それぞれの疑問を質問しながら指導を受けて実践してみると、ほとんどの方がぎこちない歩き方になり、意外に正しく歩けていなかったことが実感できたようです。普段使わない筋肉や関節が痛くなりながらも、後半には参加した全員が華やかなフォーム?を身に付けて、楽しく教室は終了しました。

体協音別支部では、自らの資質の向上を図ることを目的に毎年研修会を開催しています。今後も関係団体との連携を図りながら、スポーツの推進に努めたいと考えております。

Let's play FUTSAL!!

釧路フットサル連盟 事務局長 久保下 智之



フットサルは、1チーム5人編制、コートは最大40m×20m、主にインドアで行います。ボールを蹴ってゴールを目指す競技なので、もちろんサッカーファミリーの一つなのですが、動き方や作戦はむしろバスケットボールに近いものがあります。シュートやゴールが決まりやすいのが魅力で女性や初心者にも参加しやすいのも大きな特徴です。

釧路フットサル連盟は道内4番目のフットサル競技団体として平成18年4月に発足しました。「釧路フットサルリーグ」は前期後期に分けて通年で開催しており、初年度から安定して20から24チームに参加していただいております。

また、フットサルの全国トップリーグでありますFリーグ所属「エスポラーダ北海道」のホームゲーム釧路開催にも毎年運営協力をさせて頂き、釧路地域の皆様にトップレベルのプレーを堪能いただいております。現在6年目ですが、まずは10周年に向けて釧路管内のフットサル人口の拡大、環境整備や競技・審判レベルの向上を目的に活動して参ります。

また、フットサルの全国トップリーグでありますFリーグ所属「エスポラーダ北海道」のホームゲーム釧路開催にも毎年運営協力をさせて頂き、釧路地域の皆様にトップレベルのプレーを堪能いただいております。現在6年目ですが、まずは10周年に向けて釧路管内のフットサル人口の拡大、環境整備や競技・審判レベルの向上を目的に活動して参ります。

児童生徒の強化普及活動を目指して

釧路地方陸上競技協会 理事長 大道 裕昭



本協会は、昭和8年9月に発足、登録人数は130名体制で諸事業の活動をしています。幼・小学・中学・高校生を中心に年間地区大会は、16回。

その他に駅伝・マラソンと半年間で毎週大会を開催しています。地区レベルの一つの大会参加者は約600～700名になります。

しかし、少子化で児童生徒数も減少傾向であり本協会としても選手の減少に歯止めを図るため、強化普及に努めているところです。

現在、小学生を対象に週2回強化普及委員会を軸に釧路大陸上部の学生も参加して指導に当たり、約150名の児童が練習に励んでいます。ここ数年その成果が上がり、小学生対象大会の参加者も年々増加傾向にあります。また、全道大会出場数・入賞数も増加、今年度は全国小学生大会に釧路地方から4名が出場し、うち小6女子が80mハードルで第2位(大会新)、男子80mハードルで第5位の好成績を収めました。

今後も継続的な選手の強化・普及と指導者の育成に努めてまいります。

東北3県へ義援金として132万円

被災地の子たちよ、スポーツを通じてたくましく育て

釧路市体育協会は8月17日、東日本大震災で特に被害の大きかった宮城・岩手両県の体育協会と福島県教育委員会に対して義援金を送りました。

これには、「震災に負けることなく、子供たちがスポーツ活動を通して元気に育ち、復興のたくましい担い手に育ってほしい」との願いが込められています。

義援金は、各加盟団体が取り組んだ募金の総計32万724円に「釧路市体育協会スポーツ振興基金」からの拠

出100万円を加え、総額132万724円となりました。送金額は、それぞれ被災の程度に応じて宮城県52万724円、岩手県40万円、福島県40万円としました。

なお、釧路市体育協会は4月27日にも各加盟団体の募金活動による義援金23万3千503円を、北海道体育協会を通じて日本赤十字への振込をしております。

会員皆様の善意に裏打されたご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成23年度評議員会

23・24年度 新役員決定

副会長増員の5人体制

役員改選期に当たる今年度は、釧路市のスポーツの振興を見据え、組織や事業の拡大を目指すために役員体制の強化が求められておりました。

理事は定員20名であり、その選出は申し合わせ事項に沿って17理事の選出母体となる競技団体を選出、更に阿寒・音別支部から各1名、会長推薦の学識経験者1名を加えて20名の理事枠を決定。直ちに理事会を開催し、専務理事を互選しました。

会長・副会長の改選では、役員選考委員会を設置してその原案を評議員会に提案、原案通りに決定いたしました。今まで3名であった副会長は、2名増員で5人体制となりました。

平成23・24年度釧路市体育協会役員

会 長：張江悌治

副 会 長：栗林定徳、北村 剛、横地敏光、
足立功一、北上俊一

専務理事：高橋優夫

理 事：八幡一義、眞籠敏夫、大道裕昭、
染谷友久、中村政男、小松重知、
武田和夫、吉田省史、谷口秀生、
伊藤寿章、三森敏司、野田 昇、
福光壽男、中嶋 進、澤崎晋司、
石川元也、山辺文彰、佐々木勝成、
横平 昭

監 事：橋本勢津子、佐藤茂樹

評 議 員：全加盟団体から各1名
阿寒・音別支部から各2名選出

編集後記



スポーツを観て、私たちは熱中したり、感動や湧き上がる勇気を覚えたりすることが少なくない。ドイツで開催された第6回女子サッカーワールドカップで世界を制した「なでしこジャパン」。あのひたむきな頑張りとは、最後まであきらめない姿に私たちは心を打たれた。団体としては初の国民栄誉賞が贈られ、来年のロンドンオリンピックでの活躍にもさらなる期待が高まっている▼一方、スポーツで流す汗の爽快感は、他に代えがたいものがある。市教委は市民皆スポーツを目指して昭和44年から学校スポーツ開放を実施している。平成22年度には、37の小中学校体育館と2グラウンドで約9万1千人の利用があった。他のスポーツ施設でも湿原の風アリーナ釧路を筆頭に、プール、テニスコート、スケートリンク等々、様々なところで多くの市民が多様なスポーツを行っていることは想像に難くない▼平成17年に実施した「釧路市民健康とスポーツについての意識調査」によると、「運動やスポーツをする理由」として、回答数の多い順から1健康・体力づくり、2ストレス解消、3運動不足解消、4家族や仲間・友人との交流、となっている。一方、「運動やスポーツをしない理由」としては、「多忙で時間がない」がダントツ▼世はまさに生涯スポーツの時代。市民一人一人がスポーツとの関わりの優先順位をさらに高めることが重要である。スポーツを実際に行う市民が増えれば、元氣都市くしろの活力がますます増すこととなる▼感動、健康、達成感、仲間、爽快感、生き甲斐……。 「観る」にせよ「する」にせよ、スポーツとの関わりを通して私たちが得るものは実に大きい。